

1854

安政の大地震



1889

十津川大水害



1959

伊勢湾台風

2011

紀伊半島大水害



歴史から学ぶ

奈良の災害史



倒壊した家屋の様子 (明治22年8月18～20日十津川大水害・本文22ページへ・写真:『吉野郡水災誌』より)



崩落した対岸へ鉄線を渡し、箱舟で川を渡る人 (明治22年8月18～20日十津川大水害・写真:『吉野郡水災誌』より)



十津川大水害の警戒碑



豪雨で増水した飛鳥川の堤防に1人とどまり、殉職した村田己喜次巡査の慰霊碑には毎年命日に檀原署の警察官が参拝している (大正6年9月28～30日台風・本文48ページへ)



磯城農学校の倒壊 (昭和9年9月17～21日室戸台風・本文63ページへ)



田原小学校児童殉難の碑 (昭和9年9月17～21日室戸台風)



生駒郡都跡村西ノ京（現奈良市）薬師寺の土塀の崩壊（昭和11年2月21日河内大和地震・本文73ページへ・写真提供：気象庁）



瀬南村南郷（現広陵町）の物置小屋の倒壊（昭和11年2月21日河内大和地震・写真提供：気象庁）



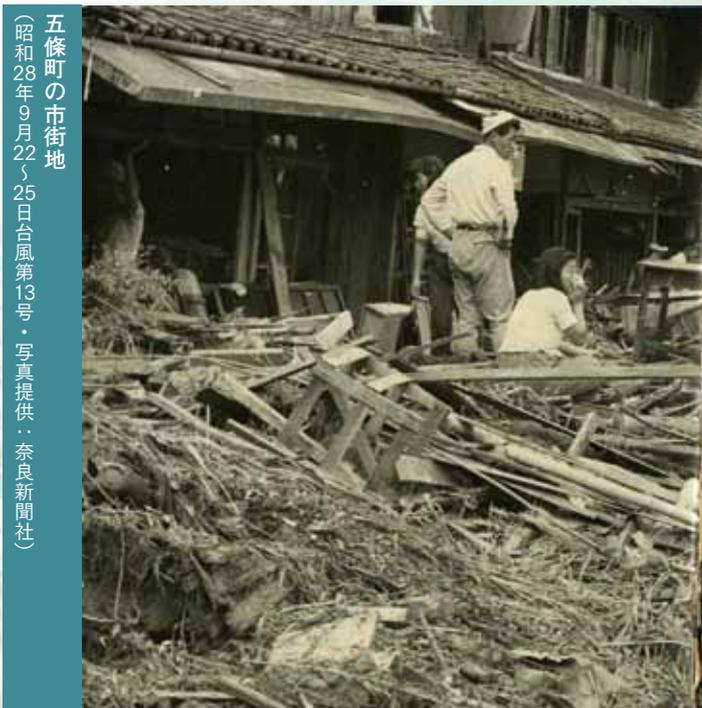
大阪鉄道（当時）上太子駅ホームに亀裂を生じ、内側が沈下（昭和11年2月21日河内大和地震・写真提供：気象庁）



宇智吉野地区警察倒壊（昭和28年9月22～25日台風第13号・本文95ページへ・写真提供：五條消防署）



寿命川井堰決壊（昭和28年9月22～25日台風第13号・写真提供：五條消防署）



五條町の市街地（昭和28年9月22～25日台風第13号・写真提供：奈良新聞社）





ひざ下まで浸水した川東村（現田原本町）（昭和31年9月25～27日台風第15号・本文102ページへ・写真提供：奈良新聞社）

流木が押し寄せた榛原町（現宇陀市）天野橋（昭和34年9月25～26日伊勢湾台風・本文112ページへ・写真提供：奈良新聞社）



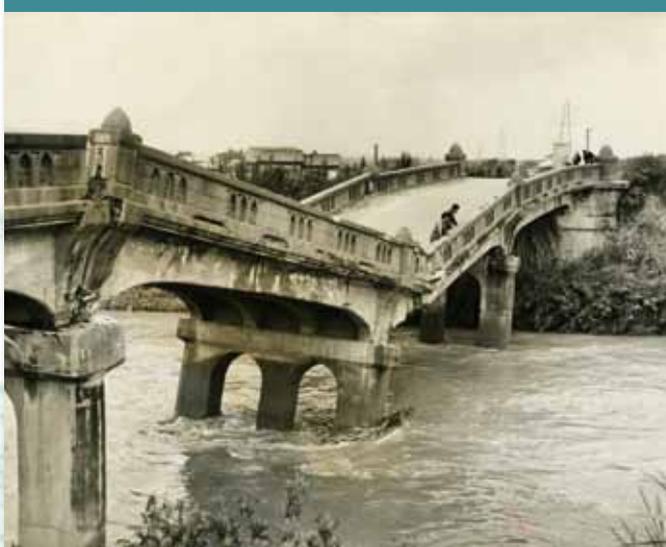
増水した川の水が橋を越えた東吉野村の川（昭和34年9月25～26日伊勢湾台風・写真提供：東吉野村）

池の中に吹き飛ばされた奈良市の民家（昭和36年9月14～16日・第2室戸台風・本文133ページへ・写真提供：奈良新聞社）



蓮長寺鐘楼（昭和36年9月14～16日第2室戸台風・写真提供：奈良新聞社）

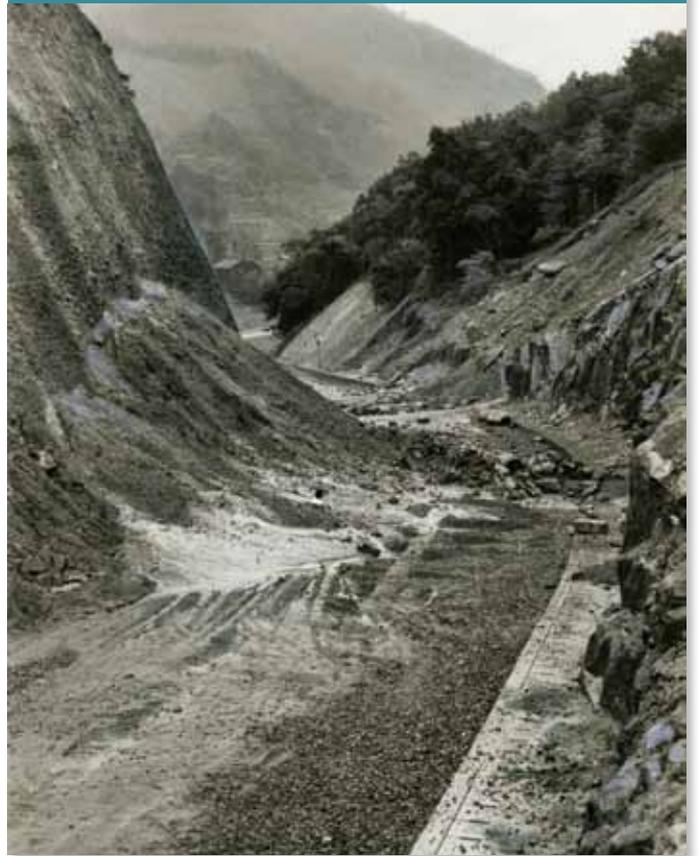
増水のため川底がえぐられ橋脚が陥没した郡山一川西間の板東橋（昭和40年9月17～18日台風第24号・写真提供：奈良新聞社）





長雨で崩れた法隆寺の土塀
(昭和42年7月8～9日大雨・写真提供：奈良新聞社)

土砂崩れでふさがった室生村(現宇陀市)の国道165号
(昭和44年7月4～5日大雨・写真提供：奈良新聞社)



ガードレールもろともすり落ちた五條市釜窪町の道路
(昭和47年7月9～14日大雨・写真提供：奈良新聞社)



興福寺五重塔前の松の古木が倒れる
(昭和53年6月22～23日大雨・写真提供：奈良新聞社)



大雨で増水、橿原市川西町で木橋が流失
(昭和53年6月22～23日大雨・写真提供：奈良新聞社)



生駒市の新池決壊で土砂に埋まった水田
(昭和54年6月27～30日大雨・写真提供：奈良新聞社)



台風16号の突風で崩れた奈良市内の
材木置き場(昭和54年10月2日台風第16
号・写真提供：奈良新聞社)



県南部を襲った豪雨による増水で流さ
れた乗用車(昭和57年6月2日大雨・写真
提供：奈良新聞社)



後方の山から土砂が崩れ、押し潰された常龍寺
(昭和57年7月31日～8月4日大和川大水
害・低気圧・本文149
ページへ・写真提供：奈良新聞社)



赤ちゃんのミルクを乗せて孤立した団
地へ向かうボート
(昭和57年7月31日～8月4日大和川大水
害・低気圧・写真提供：奈良新聞社)



三郷町信貴山では放水して必死の
救出活動が行われた
(昭和57年7月31日～8月4日大和川大
水害・低気圧・写真提供：奈良新聞社)

背面の杉の倒木により損壊した吉野郡吉野町の天満神社本殿
(平成10年9月22日台風第7号)



強烈な西風で北東側に倒れた香芝市鎌田のコンクリートの電柱の列
(平成10年9月22日台風第7号・写真提供：奈良新聞社)



倒木で大きく破損した室生寺五重塔
(平成10年9月22日台風第7号・本文162ページへ・写真提供：奈良新聞社)



夜を徹し復旧作業を行う近鉄関係者・大和高田市磯野
(平成10年9月22日台風第7号・写真提供：奈良新聞社)



一面が湖水のようになった王寺町(昭和57年7月31日～8月4日大和川大水害・低気圧・写真提供：奈良新聞社)



五條市の大川橋で強風にあおられて横転したトラック(平成10年9月22日台風第7号・写真提供：奈良新聞社)



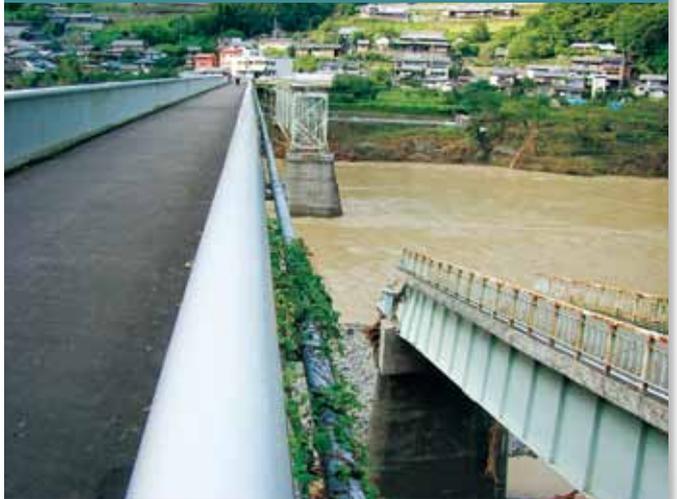
十津川村栗平の河道閉塞。高さ約450m、長さ約950m、幅約650mにわたって深層崩壊した
(平成23年8月30日～9月4日紀伊半島大水害・本文170ページへ)

河道閉塞により浸水した野迫川村北股集落
(平成23年8月30日～9月4日紀伊半島大水害)



天川村坪内地区天川中学校
(平成23年8月30日～9月4日紀伊半島大水害)

崩落した十津川村折立の折立橋
(平成23年8月30日～9月4日紀伊半島大水害)



被災直後の十津川村長殿地区
(平成23年8月30日～9月4日紀伊半島大水害)

山越え陸路による物資搬送
(平成23年8月30日～9月4日紀伊半島大水害)



歴史から学ぶ
奈良の災害史

はじめに

平成23年9月に発生した紀伊半島大水害は、県内に死者14名、行方不明者10名という甚大な被害を引き起こしました。この災害発生から2年半という歳月が経過し、復旧・復興に向けて着実に前進しているところですが、今もなお、避難生活を余儀なくされている方々がいらっしゃいます。引き続き、避難者の皆様が一日も早く通常の生活に戻ることができるよう、県、市町村や関係機関が一体となって復旧・復興に取り組んでいく所存です。

紀伊半島大水害は、明治の十津川大水害と台風の進路や大規模な土砂災害が多発した点などが酷似していました。災害は繰り返すといわれますが、私たちはこの災害で経験したことを教訓とし、次世代に継承することが重要なことを改めて知ることとなりました。過去の災害を知り、災害に備えることは、危機管理上欠かせないことだと思います。

これまで、奈良県は比較的災害が少ない地域だといわれてきましたが、国が発表した南海トラフ巨大地震による被害想定では、県内で最大1,700人の死者が発生するなど、大きな被害が予想されています。また、近年の気象状況をみても、集中豪雨や突風・竜巻等、今までの予想を超える現象が多数発生しています。

県といたしましても、東日本大震災や紀伊半島大水害の教訓を踏まえ、災害による被害を最小限にとどめることができるよう、地域防災計画の見直しを行いました。また、行政による公助とともに、県民の皆様による自助、地域における共助の取り組みを推進するため「奈良県地域防災活動推進条例」を4月1日より施行いたします。新しい地域防災計画と条例に基づく取り組みを進め、より災害に強い奈良県を目指したいと考えています。

本誌では、古くは江戸時代から、まだ記憶に新しい紀伊半島大水害まで、奈良県内で被害が発生した様々な災害を取り上げ、気象状況や被害の様子をできる限り詳しくまとめております。実際に災害を体験された方のインタビューや記念碑等の写真も掲載し、学校教育等でもご活用いただけるようなわかりやすい内容といたしました。過去の災害を風化させることなく私たちの記憶にとどめ、災害の歴史から学び、今後の教訓として活かすために、この記録誌を広く活用していただきたいと考えております。

最後になりましたが、本誌作成にあたりご協力いただいた各方面の方々に深く御礼申し上げます。

平成26年3月

奈良県知事 荒井 正吾

目次

カラー特集 目で見る奈良県の災害史

はじめに	2
------------	---

第1章 江戸時代の奈良の災害

1-1 江戸時代の水害 「御所流れ」「初瀬流れ」	6
1-2 江戸時代の地震 「宝永地震」「伊賀上野地震」「安政の大地震」	9
赤土山古墳の地震跡	20

第2章 戦前の奈良の災害

2-1 十津川大水害	明治22 (1889) 年 8月18日~20日	22
2-2 台風による風害・水害	大正元 (1912) 年 9月21日~23日	41
2-3 台風による水害	大正6 (1917) 年 9月28日~30日	48
2-4 台風による風害・水害	大正10 (1921) 年 9月23日~25日	54
2-5 台風による水害	昭和5 (1930) 年 7月30日~8月1日	58
2-6 室戸台風	昭和9 (1934) 年 9月17日~21日	63
2-7 河内大和地震	昭和11 (1936) 年 2月21日	73
亀の瀬地すべり対策事業		78

第3章 戦後の奈良の災害

3-1 吉野地震	昭和27 (1952) 年 7月18日	82
3-2 紀和水害	昭和28 (1953) 年 7月17日~20日	88
3-3 台風第13号による水害	昭和28 (1953) 年 9月22日~25日	95
3-4 台風第15号による水害・土砂災害	昭和31 (1956) 年 9月25日~27日	102
3-5 台風第17号による水害・風害	昭和33 (1958) 年 8月24日~25日	107
3-6 伊勢湾台風 (台風第15号)	昭和34 (1959) 年 9月25日~26日	112

3-7	第2室戸台風(台風第18号)	昭和36(1961)年 9月14~16日	133
3-8	台風第29号による水害・土砂災害	昭和46(1971)年 9月26日	143
3-9	大和川大水害(台風第10号と低気圧)	昭和57(1982)年 7月31日~8月3日	149
3-10	台風第7号による風害	平成10(1998)年 9月22日	162
3-11	紀伊半島大水害(台風第12号)	平成23(2011)年 8月30日~9月4日	170
寄稿	奈良県の自然災害史から学ぶこと	静岡大学防災総合センター教授 牛山 素行 ^{うしやま もとゆき}	191
	奈良県の主な災害年表		196
	参考・引用資料		198
(参考)	東日本大震災に対する奈良県の取り組み(全体概要)		200

〈凡例〉

- ・数字は原則アラビア数字を使用しますが、書籍名や引用文中については表記されたままを使用します。
- ・時刻は原則12時間制で表記します。なお、引用文内などで24時間表記がされている場合はそのまま記載します。
- ・年の表記は原則元号で表し、必要と思われる場合にはカッコ内に西暦を記載します。
例：明治22(1889)年
- ・江戸時代以前の日付、時刻については原則当時の記録のものを記載し、カッコ内に現在の日付、時刻に改めたものを併記します。
- ・単位は原則漢字仮名表記で記載します。
例：mm→ミリ、hPa→ヘクトパスカル、m/s→メートル/秒、m²→平方メートル、など。
- ・風速は大正13(1924)年までは、ロビンソン型風速計で観測が行われていたため、現在の観測数値とは異なります。本書では、現在の風速計で観測した数値に換算(×0.7)したものを記載します。
- ・気圧の単位は昭和25(1950)年まで、水銀柱ミリメートル(mm Hg)が用いられていましたが、本書ではヘクトパスカルに変換(×1.333…)。小数点第2位を四捨五入)したものを記載します。また、平成3(1992)年12月まではミリバールが使用されていましたが、本書ではヘクトパスカルで表記します。
- ・地震の震度が計測地震計により自動的に観測されるようになったのは平成8(1996)年4月以降となるため、それ以前に発生した地震については、本書で記載されている震度と現在の震度とは異なります。
- ・各災害における被害者数や被害規模等については、参照する資料によっては異なる場合があります
- ・新聞などからの引用文については、基本的に旧字体、旧仮名遣いを新字体、新仮名遣いに改めています。また、必要と思われる場合にはルビを追加しています。
- ・地名については原則災害当時のものを記載し、必要と思われる場合にカッコ内に現在の地名を併記します。